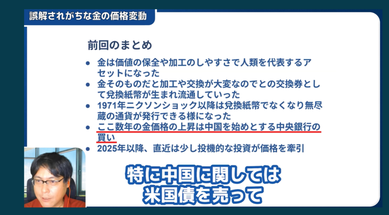
ゴールド価格と株価暴落の場面を徹底比較！
調べた結果、1番おすすめのゴールド投資信託は
これでした。

ゴールドの価値と価格変動の本質



ゴールドの価値形成と歴史的背景

ゴールドは価値の保全や加工のしやすさから人類を代表する資産となった。

金そのものは加工や交換が難しく、交換権として貨幣（ドルやポンド）が生まれた歴史がある。

ニクソンショック以降、金と交換可能な通貨の基準がなくなり、金価格は青天井で上昇する傾向となった。

ゴールド価格の動きと有事の関係

株価が下落する局面でも必ずしもゴールド価格が上がるわけではなく、同時に下落することもある。

リーマンショックやコロナショック時にはゴールドもリスク資産として下落する局面があった。

戦争やテロなどの突発的な有事では一時的に価格が上がるが、その後は必ずしも持続的に上昇しない。

インフレと金利政策がゴールド価格に与える影響

1970年代の石油ショック時にはインフレ懸念からゴールド価格が3倍以上に上昇した。

インフレは通貨価値の減少を意味し、通貨価値が下がるとゴールド価格は上がる傾向がある。

1980年代初頭のアメリカの高金利政策（15～16%）によりゴールド価格は大幅に下落した。

金利の正常化やテーパリング政策はゴールド価格の下落要因となる。

ゴールド投資の現代的な特徴とリスク

ETFの登場とゴールド市場の変化

2004年にステートストリートがスパイダーETFを開始し、ペーパーアセットとしてのゴールド取引が増加。

ETFの普及により価格変動率（ボラティリティ）が高まり、短期的なトレードが活発化した。

ETFはドル建てで運用されるため、ドルの信用不安時には真のヘッジ資産とはならないリスクがある。

ゴールドの物理保有と電子資産の可能性

真の危機時には物理的なゴールド保有が重要であり、ETFやペーパーアセットは機能しない可能性がある。

ビットコインなどの電子資産が将来的にゴールドの代替資産となる可能性も示唆されている。

投資家は物理的保有とペーパーアセットの特性を理解し、適切に使い分ける必要がある。

中央銀行の買い控えと価格受給の動向

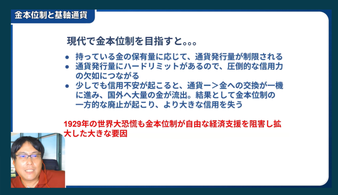
		11.6	11.9	11.3	10.8	-4	-3
	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	-2	-9
	268.1	365.3	343.4	551.2	477.2	-13	78
	275.2	270.6	324.7	324.6	306.8	-6	11
	200.2	198.8	236.4	257.7	243.1	-6	21
	49.6	32.1	52.5	44.3	38.9	-12	-22
	25.4	39.8	35.8	22.7	24.8	9	-3
	-7.1	94.7	18.7	226.6	→ 170.5	-25	-
ions	211.5	199.5	365.1	248.6	166.5	-33	-21
	977.0	**1,194.3**	**1,315.7**	**1,305.6**	**1,079.0**	-17	10
	233.0	82.3	-31.2	-131.2	169.8	-229	-27
	1,210.0	**1,276.6**	**1,284.4**	**1,174.5**	**1,248.8**	6	3
	2,338.2	2,474.3	2,663.4	2,859.6	3,280.4	15	40

近年、中央銀行のゴールド買いが弱まり、ETFの買いが価格形成に影響を与えている。

2025年第2四半期のデータでは中央銀行の買いが大幅に減少し、受給側に弱まりが見られる。

今後の価格動向は中央銀行の動向や地政学的リスク、経済政策の変化に左右される。

通貨信用とゴールドの関係性および国際情勢の影響

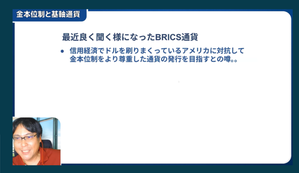


通貨発行量と信用創造の構造

金本位制が廃止されて以降、通貨発行量にハードリミットはなく、信用創造が経済の基盤となっている。

通貨発行量が増えても必ずしもゴールド価格が上がるわけではなく、信用の信頼性が重要な要素。

経済は信用に基づいて成り立っており、住宅ローンやクレジットカードも信用創造の一部である。

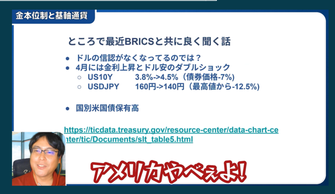


ブリックス通貨構想と金本位制の現実

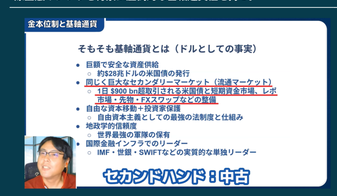
ブリックス諸国（ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ）が独自通貨や金本位制を目指す動きがあるが、実現は困難。

金本位制は経済成長を阻害し、金の流出を招くため、長期的には経済発展にマイナスの影響が大きい。

金本位制を掲げる通貨は信頼性を維持できず、実質的には方便に過ぎないとの見解が示されている。



米ドルは世界最大の債券市場や自由な資本移動、強力な軍事力、国際金融インフラを背景に圧倒的な基軸通貨性を持つ。



米ドルの信用力と国際金融の現状

貿易赤字が拡大しても、ネットワーク効果によりドルの信用は強固であり、急激な崩壊は考えにくい。

ドルの地位は長期的なプロセスで変化し、短期的な不安やメディア報道に惑わされないことが重要。

投資家向けゴールド投資の実践的アドバイス

ファンド名/変称	ゴールド・ファンド(e隊)	SBI・ICE アーズ・ゴールド(e隊)(ヘッジ)(純金(為替ヘッジなし)	Smart ゴールドファンド(e隊)	SMT ゴールドインデックス・オープン(e隊)
運用会社名	日興アセットマネジメント	SBIアセットマネジメント	ウリそるアセットマネジメント	三井住友トラスト・アセットマネジメント
カテゴリー	コモディティ	コモディティ	コモディティ	コモディティ
ベンチマーク	なし	なし	なし	LBMA金価格(円換算ベース)
基準価額	33,268円	17,918円	23,761円	30,851円
純資産	102,882百万円	96,701百万円	13,178百万円	13,057百万円
	1年毎	1年毎	1年毎	半年毎
0	0	0	0	0
…	…	…	…	…

日本在住者におすすめのゴールド投資信託

SBI・ICゴールド（ヘッジなし）が信託報酬の低さとパフォーマンスの良さから最適な選択肢とされる。

ヘッジありとヘッジなしの違いは為替リスクの管理方法であり、ヘッジありは円高局面で有利だが金利差損が発生する。

日本人投資家は基本的に円資産を持っているため、ヘッジなしでドル建て資産として運用する方が合理的とされる。

新設ファンドや流入の少ないファンドはパフォーマンス評価が難しいため避けるべき。

ETFや投資信託はドル建てで運用されるため、ドルの信用リスクを理解した上で投資する必要がある。

長期保有を前提に、インフレヘッジとしての役割を重視し、短期的な価格変動に過度に反応しないことが重要。

投資信託の選び方と注意点